

競技・審判上の注意

1. 本大会は、令和4年度公益財団法人日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程並びに同公認審判員規程により行います。
2. 各会場の開館時間は、8時00分です。
3. プレーヤーの受付は、競技当日、参加種目会場のロビーにて受付を行ってください。他の会場での受付はできません。
4. 大会期間中の練習会場は、特に設けておりません。
試合開始の場内放送後、プレーヤーは選手待機所から先にコートに入ります。
5. 試合開始前の練習はありません。試合のコールがあり、主審がコートでプレーヤーを集合させる前の間のみ練習は可能です。大会運営の迅速な運営にご協力をお願いします。
6. タイムテーブルには、コート別に試合順が示されていますが、あくまでも目安であり、各種目ごとの流し込み方式で行います。また、試合の進行状況により、試合順序や開始時刻を変更して試合を行うことがありますので、場内放送に注意してください。
7. 試合開始の場内放送後、10分経過して当該プレーヤーがコートに入らない場合は棄権とみなします。その最終判断はレフェリーが行います。
8. 連続試合の場合は、原則として試合終了後15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
9. シャトルは試打してありますので、選択は認めません。シャトルの交換については、主審の許可を得てください。
10. 試合中、シャトルが天井、照明器具及び付属部分に触れた場合はすべてフォルトとします。
11. 試合中の水分補給については、必ず主審の許可を得てください。容器についてはフタ付きのものとし、床面にこぼさないように注意してください。飲み物用のトレイは置きませんので、コートサイドの各自のバッグ等の中に置くようにしてください。
12. 換気のため、窓、扉の常時または定期的な開放を行うことがあります。
13. コートのモップ掛けは、ゲーム毎と試合終了後に、補助員が行います。
14. 毎試合終了後、審判台・線審席・コーチ席・サービスジャッジ席・サービス高測定器の消毒を補助員が行います。（サービスジャッジ席・サービス高測定器は最終日のみ）
15. コーチングシート（コーチ席）は、所定の位置に1席用意してあります。
16. 試合時の服装で、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣の背面には都道府県名を明記してください。文字列の大きさについては、（公財）日本バドミントン協会大会運営規程第24条によるものとします。
17. 試合中のケガや病気の場合は、主審の判断によってレフェリーを呼び、レフェリーが医療役員やその他の人をコートに呼ぶ必要があるかどうかの判断を下します。なお、試合中のケガや病気の応急処置は主催者側で行いますが、その後の処置については各自の責任で行ってください。
18. マッチ中のアドバイスは、シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り受けることができます。また、プレーヤーはインターバルを除き、主審の許可なしに、マッチ中、コートを離れた場合は遅延行為とみなします。
19. 携帯電話は、試合中電源をOFFにしてください。警告、フォルトの対象になります。また、モバイル機器（ipad等）を使用しての試合中のアドバイス、コーチングは、禁止します。
20. 本大会の主審と一部線審は、開催県バドミントン協会が行いますが、敗者は次の試合の線審となります。試合終了後、敗者の方はそのコートで待機してください。なお、敗者線審をする際は（代理の方を含め）、体育館シューズ着用をお願いします。競技最終日（準決勝、決勝）の審判は、全て開催県バドミントン協会で行います。

21. 審判構成は、主審線審 2 名で、サービスジャッジは原則として配置しません。ただし、準決勝、決勝は、主審、サービスジャッジ、線審 2 名で行います。
22. 閉会式、表彰式については、以下のとおりです。
 - ・閉会式は行いません。
 - ・入賞者(1~3 位) には、賞状とメダルが授与されます。
 - ・表彰式は、決定しだい随時、所定の場所で行います。
 - ・表彰後、入賞者ごとの写真撮影を表彰席脇の撮影位置で行います。
23. 競技区域フロア以外でのシャトル打ちはご遠慮ください。(特にロビーや体育館外)
24. プレーヤーがやむを得ず棄権する場合は、必ずレフェリーまたは会場責任者に、その理由とともに連絡をしてください。その場合、レフェリーの判断により、それ以降の種目の試合には参加資格が失われることがあります。
25. ゴミはすべて各自でお持ち帰りください。